図書館実習を終えて

桃山学院大学 経営学部経営学科
3 年次（2020 年度時点）
森畑翔平

この度、私は、堺市立中央図書館と堺市立中図書館、桃山学院大学附属図書館で 8 日間実習をさせて頂いた。このレポートで、実習やその後の報告会で学んだ点などを含めてまとめていく。

まず初めに、８月に堺市立中央と堺市立中図書館でさせて頂いた実習についてまとめていく。1 日目は、堺市立図書館の主なサービスや予約・協力貸出、地域資料について講義を受けさせて頂いた。特に、地域資料の取組や独特な収集方法や、堺市周辺の自治体や団体などとの連携、予約貸出サービスなど公共図書館の特徴を理解することが出来た。２日目から３日目は、堺市市立中図書館で配架作業や予約本の回収、POP の作成、カウンター業務をさせて頂いた。書庫の装備や児童サービスや地域資料といったスペースなど間取りの用途が異なっていることが実感した。4 日目は、堺市立中央図書館で、児童サービスや見計らい制度、電子書籍を含む図書館の情報システムについて学ばせて頂いた。特に子供にとって本を楽しく身近な存在であることが必要だという点や、電子書籍がコロナ禍の状況にも合った、非来館型サービスを可能としサービスの充実を実現するだけでなく、図書館の運営をしていくうえで、図書の修繕や貸出返却業務、催促といった業務の効率化を図る点を知った。それだけでなく、インターネット上のサービスを発展させつつ、「第三の場の提供」など図書館の装備（図書など）や施設といった図書館だからこそできるサービスを考えることも必要だと改めて実感した。

５日目は、中央図書館でカウンター業務と配架業務、レファレンスを中心に経験させて頂いた。中図書館でも経験して、特に移動や立っている時間がほとんどで体力や利用者の質問の意図を理解するための傾聴力を含む利用者とのコミュニケーション能力が必要だと感じた。

次に 9 月に 3 日間は桃山学院大学附属図書館で学ばせて頂いたことをまとめていく。1 日目は、著作権や相互貸出についての知識やレファレンスの体験をさせて頂いた。レファレンスは、公共図書館でも経験していたが、館内の図書だけでなくデータベースなども活用し、利用者の質問に対する答えを出すことの難しさを実感した。２日目では、業務と配架業務を中心にさせて頂き、図書館とは異なるシステムや手順であることや、利用者が利用しやすいように詰め込まないようにするなど工夫が必要だと感じた。３日目は、収集した図書のデータ入力やラベルの装備などを中心に行った。LIMEDIO や NACSIS-CAT を利用し情報の登録やラベルの装備、そして雑誌や新聞を中心に配架を行った。請求記号（特に別置記号）やシステム館種や図書館ごとの違いを知った。

8 日間にわたって３館で行った実習を通して、地域コミュニティに根ざした公共図書館と学生の学びを手助けする大学図書館の違いや、図書館を運営する難しさ、見計らい図書の選別から目録の作成、配架、カウンター業務まで経験させて頂いたことで、すべての業務が繋がっていることといったことを学ばせて頂いた。

今回の実習で学んだことを学業や活動でも活かしていきたいと思う。

図書館実習を終えて

桃山学院大学
経営学部経営学科
3 年次 飯田琴巳

１．はじめに

8 月 10 日～8 月 14 日の計 5 日間を堺市立図書館で、8 月 27 日～8 月 28 日の計 2 日間を香芝市民図書館で実習をさせていただいた。

２．実習内容

堺市立図書館でのスケジュールは以下の通りだ。1, 4, 5 日目は堺市立中央図書館で、2, 3 日目は堺市立東図書館で実習をさせていただいた。他大学の実習生やインターンシップ生の方々もいて、交流を深めながら実習に取り組むことができ、お話をする中で、いい刺激をもらうことができた。

8 月 10 日（1 日目）

- 館内見学
- カウンター業務/配架業務
- 予約/協力貸出（講義・実務説明）
- 地域資料講義

8 月 11 日（2 日目）

- 館内案内・予約回収
- 返却
- 書架整理
- 資料整理

8 月 12 日（3 日目）

- 予約回収
- 返却
- 資料整理
- 配架

8 月 13 日（4 日目）

- 児童：業務全般・子ども読書（講義）
- 企画情報係：業務全般・収書・システム・電子書籍等（講義）

8 月 14 日（5 日目）

- 一般：レファレンス実習/カウンター業務・配架業務
- 質疑応答

計 5 日間の中で一番印象に残っているのは、4 日目の児童書の講義である。司書の方が最初に『七羽のカラス』のストーリーテリングを行い、その後に『七羽のカラス』の絵本を他の実習生やインターンシップ生の方々と一緒に見た。ストーリーテリングとは、語り手が物語を覚えて聞き手に語ることであり、行う際に、集中してお話を聞くことができるように、部屋の電気を消し、カーテンを閉めて暗くし、ロウソクに火を灯してお話を聞いた。司書の方が絵本とストーリーテリングでは、楽しみ方が違うので聞き手の受け取り方に違いがあると仰っていたが、確かに、登場人物である、7 人のお兄ちゃんや妹、お父さん、お母さんを自分の頭の中で想像しながら聞き、絵本を見た時に、想像していたものと少し違うという点があった。例えば、妹は想像より幼く描かれており、お兄ちゃんたちの着ている服装は想像より派手に描かれていた。この様な受け取り方の違いは非常に興味深いと感じた。また、司書の方が、絵本や児童書で大切なのは、読み終わった後に喜びや生きる力に繋がるかどうかと仰っており、絵本は簡単で単純そうに見えるが奥が深いものであると改めて学ぶことができた。

香芝市民図書館でのスケジュールは以下の通りだ。

8 月 27 日（1 日目）

- 実習内容・館内説明
- えほんたいむで読む絵本選書・練習
- えほんたいむ（反省会も）
- 新刊図書の受入
- 移動図書館車積込作業
- おすすめめしたい本の選書
- 配架

8 月 28 日（2 日目）

- 配架
- 除籍作業
- フィルムコート
- おすすめ本紹介用 POP を作成
- おはなし会（見学）

- 展示の準備（コード変更等）

計 2 日間で一番印象に残っているのは、おすすめ本紹介用 POP を作成したことである。1 日目におすすめ本紹介でどの様な特集を組むのか考え、本を選書した。組んだ特集は 10 月頃まで行われるとのことだったので、これからの季節に向けて「食欲の秋」という絵本の特集を組んだ。数十冊の絵本を選書した中で、1 番お勧めしたい『グリーンマントのピーマンマン』の POP を作成した。POP を作成する際に、どのような POP だと絵本を手に取りたくなるのかということを考えながら作成した。特集は展示され、出来上がった時に達成感があった。後日、先生が香芝市民図書館へお礼の挨拶に行かれた際に、私の組んだ特集の本が全て借りられていたという報告を頂いた。選書した本を、誰か手に取り読んでくれたことに喜びを感じた。

３．報告会

報告会はとても緊張したが、自分自身の学びや気づきをアウトプットする良い機会となった。また、他の図書館の実習報告も聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができた。

４．感想

実習で得た学びや気づきは主に 3 つある。 1 つ目は、館によって決まりや雰囲気が異なり、公共図書館の中でも、県立や市立によって果たすべき役割が違っているが、どの図書館も利用される方々が、より快適に利用しやすくなることを心掛けていたということだ。2 つ目は、本のことだけじゃなく利用者の方々のことや公立図書館としてすべきこと、生涯学習の場としてすべきことなど様々な視点から図書館について考えることが大切であるということだ。3 つ目は、働くにあたって重たい本を運ぶうえで体力や、POP 作成やフィルムコートをかけるような細かな作業が意外と多いので、器用さが必要であるということである。図書館実習は、座学だけでは学べない、図書館の実務を体験し、書庫や本に触れることができ、貴重な体験となった。

図書館実習を終えて

桃山学院大学
法学部法律学科
3 年次 田中明佳

私は、今回、広島県三次市に設立する三次市立図書館での実習を 5 日間、桃山学院大学附属図書館での実習を 2 日間行った。図書館実習の内容として、貸出・返却を含めたカウンター業務、読み聞かせや夏休み企画などイベント運営の補助、本の装備・登録、展示作り、配達業務を行った。また、三次市立図書館では、郷土資料のお話を学ばせて頂いた。桃山学院大学附属図書館では、大学図書館特有の著作権の問題や扱いについて、レファレンス・データベース、相互利用、出版業務についてのお話を学ばせて頂いた。

合同報告会では、TRC シティプラザ図書館、堺市立中央図書館、堺市立東図書館、香芝市民図書館での実習の報告を聞いた。コロナ禍や自然災害という障害があったにも関わらず、本を消毒する装置の設置や、ソーシャルディスタンスに配慮するなどの対策を行った上で、読み聞かせや夏休み企画を行っていた。どの図書館も、返却の忙しさや郷土資料の内容や保管管理、イベント内容や展示内容など、地域や人口や施設空間の規模による特色が見られた。

今回の図書館実習や報告会を通して、利用者第一に考える力が浅はかだったと感じた。展示作成や企画作りに関わって、どうすれば利用者が本を手に取ることができるか、どうすれば利用者が施設を楽しく利用することが出来るのかが、実習を通して改めて分かった。司書の一番の業務であるレファレンス内容も利用者の年齢層や職業、時期を考えて対応・展示することが大切であり、図書館職員の皆様のご教示によって考え直すことが出来た。読み聞かせやイベント企画を見学・補助を通して、やはり子ども達の好奇心を支えることが出来る司書も良いと感じた。高校生の時から図書館司書になりたいという夢があった。しかし、「司書になる」という目的があっても、司書の理想像は、あまり想像出来ないでいた。しかし、生涯学習を行う図書館という施設として、利用者の好奇心や学習を支える司書も、一つの司書としての理想の姿だと考えた。

また、読み聞かせを実際に行っているボランティアの方々に、見学やお話を聞かせて頂いて、子どもで受け身だった自分から、全体の雰囲気や読み聞かせをするコツを聞いて学ぶ自分へと変わっていったことに、年齢だけでなく司書になる身として成長して進んでいるように感じた。それは、地元の図書館を利用者から実習生として帰ってきただけではなく、漠然ではあるが「司書になりたい」という気持ちを持ち続けて、ここまで資格取得を目指すことが出来たからだと考えている。

今後として、図書館実習で力不足や知識として得ていなかった内容をこれからも大学の講義を通して学び続け、司書資格取得を目指そうと考えている。平成から令和へと年号が

変わり、コロナ禍による社会環境や学習環境が変わっていく上で、図書館はどのように動いていくべきか、司書として利用者や施設をどう支えていくべきか、新たな課題として考えていこうと思う。

著作権者の希望により非公開

著作権者の希望により非公開

図書館実習を終えて

桃山学院大学
社会学部社会学科
3 年次 吉村葵

今回の図書館実習を終えて、図書館司書資格の課程としても大学生活の一環としても参加して良かった、得がたい経験をしたと強く感じました。また、大学図書館と公共図書館のサービス内容の違いや分類や書誌情報の登録の仕方など様々なことを学ぶことが出来ました。

一つ目の実習先である公立図書館である TRC シティプラザ図書館では、通常業務からイベントのお手伝いまで様々な体験をさせていただくことが出来ました。その中で特に印象に残っているものは、書架整理と返却作業です。書架整理では、本の凹凸を整理、分類番号・本が取り出しやすいかなど確認していました。気が付かないような少しのことでも利用者の方に心地よく使って頂くため、常に相手のことを考え、どうすればいいのかといった気遣いが感じられました。私もそのことを念頭に置きながら書架整理を行ないましたが、綺麗に使いやすくすることを意識しすぎた為に作業が中々進まず、絵本の書架整理では並び順を間違えるといったことがありました。返却作業では、返却手続きを行い分類ごとにブックトラックに仮置きするという作業で、仮置きする場所は分類番号と本の形態によって決まっていました。作業内容を聞いた際は、分類について何度も講義で学んだことのある内容だったので問題はないと考えていましたが、実際に作業をしてみるとメモを何度も確認しながらの作業となり、初めは判断に時間がかかっていました。この経験で、知識を身につけていたつもりになっていたのだと実感しました。ですが、何度か繰り返していく内に最終日にはメモを見ることもなく作業を行なえ、知識を自分のものに出来たという実感を得ることが出来ました。

二つ目の実習先である桃山学院大学附属図書館では、二日という短い時間でしたが、公立図書館と同じくらい多くの業務を体験させて頂くことが出来ました。自分が知らなかったものや利用したことがないものを多く知ることができ、これからの大学生活に活用していこうと思えました。また、公立図書館ではやっていなかった新聞や雑誌の配架や書誌情報の登録など大学附属図書館ならではといったものを体験することが出来ました。その中でも印象に残っているものは、整理業務として地下書庫に紀要を収納した業務です。大学名ごとに細かく分け、更に学部ごとにも分けられているため、該当の資料を見つけるのも難しく資料を全て片付けることが出来ず、もう少し早く見つけることが出来るようになりたいと感じました。また、数多くの大学の何十年といった数の紀要が収納されており、学生や大学教授を対象とした所蔵内容であると改めて理解しました。

合同報告会にて、業務内容の説明の際に、同じ業務内容ではあるがやり方が異なっていたことや同じようにやりがいを感じていたという話を聞くことができ、違う図書館でも同

じように多くのことを体験し、学ぶことが出来たのかと感じました。報告の後、少し他の発表者の方と話したが、共通点やその図書館特有の事について話すのがとても楽しかったです。

図書館実習では、講義だけでは知っていると終わらせていた部分を実際に経験することで理解することができ、この経験が自身の力になっていると実感することが出来ました。また今後、講義を受ける際は実際にはどう行動するのか、どう対応するのが利用者の方々の為になるのか考えながら学んでいきたいと感じました。